

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本の教育システムと大学生の生活
Author(s)	コラン サヤリ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 31期 : 1 - 17
Issue Date	2016-11-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00042503
Right	
Relation	



日本の教育システムと大学生の生活

コラン・サヤリ

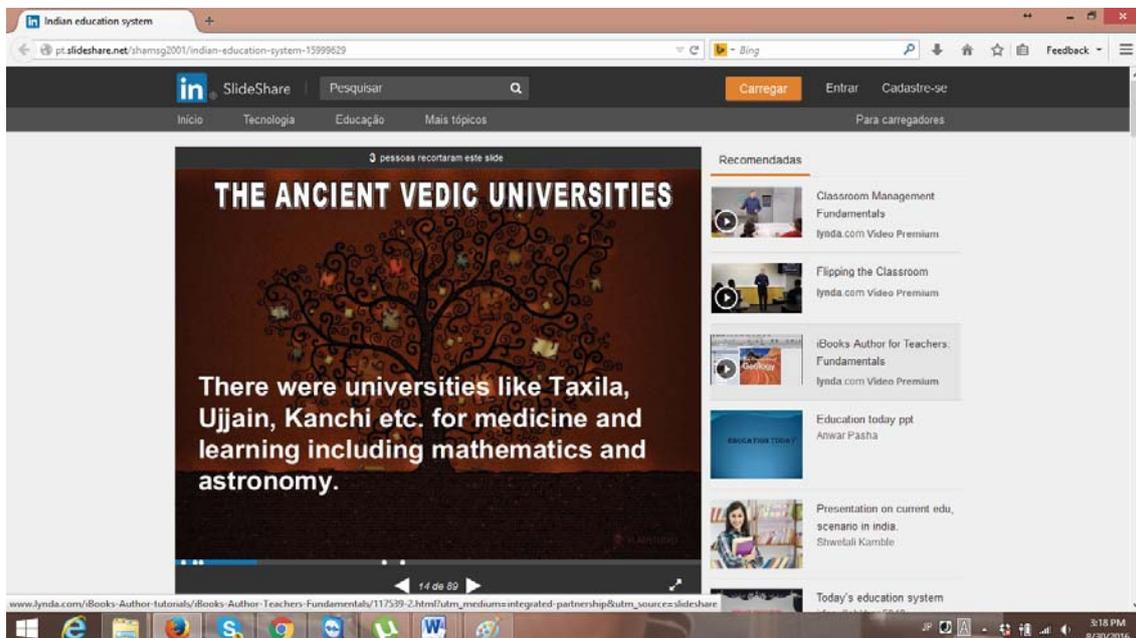
0. はじめに

「教育」は人の考え方を変えるものである。人に「いいもの」と「悪いもの」の違いを分かるようにしてくれる。いい教育を受けると、資格だけでなく、性格も同時に変わる。私が生まれた国インドと日本ではやはり教育システムに違いがある。インドには英国式の教育が導入されている。発展途上国と先進国の教育システムはどう違うのだろうか？日本の教育システムは世界で四位と評価されている。

しかし、最高水準の教育が行われているところでも穴はあるだろう。それを知るために、日本における教育の効果、そして、現在の学生達の抱える問題や不安について調べてみたいと思った。インドも日本も文化の豊かな国だが、教育システムと学生達の問題は違うだろう。だから、インドと日本の教育システムの歴史についても知る必要がある。

私がインド人として日本の教育システムを見ると、日本はアクティブで体験的な勉強が中心だ。インドではアクティブではなく、理論的な勉強が中心となっている。

1. インドの教育システムについて



1.1 インドのグルクル システム

昔のインドの教育システムは「グルクル」という学校から始まった。グルクルの生徒

達は野外で暮らし、社会的地位を問わずみんなで楽しく学んだ。勉強が終わると、生徒達は先生に尊敬と感謝のしるしとしてお金を払い、それは「ダクシナ」と言われた。

ナランダ大学はビハールにあったが、歴史を誇る偉大な大学として知られ、西暦 427 年から 1197 年まで続いた。7 世紀から 1200 C.E. 年まであったタキシラ大学、ウジャイン大学、カンチ大学も医学、数学、天文学で知られていた。

ラビンドラナートという先生がシャンティニケタンというところでパテュ・バワンという野外の学校を始めた。これは後に世界的に知られる大学となり、現在はヴィシャワ・バーラティ大学となっている。

1.2 独立後の教育システム

1945 年の独立後、インドの初代文相モラナ・アザダ(Maulana Azad)は中央政府が管理できる教育システム (Recommend) を強力に推し進めた。国内のどこでも同じ教育を行えるシステムを確立しようとしたのだ。インドの政府は少なくとも 14 歳までは学校で教育しようとする主張している。現在、インドでは 6 歳～16 歳までの教育は無料である。District Primary Education Programme(DPEP) が 1994 年に発足したが、その目的は既存の小学校教育システムを作りかえ、国内のシステムを統一することだった。

インドでは学校で昼ご飯を食べさせるが、このスキームが始まったのは学校に入学する子供を増やすためだった。インドで現在行われている教育システム「サラワ・シカシャー・アービアン (Sarva Shiksha Abhyyan)」は世界で一番進んだ教育システムと言われており、政府は身体の不自由な子供にも教育を受けさせると主張している。現在は「10 年+2 年+3 年」を標準パターンとしている。

1.3 インドの学校のシステム

- 幼稚園 — 1 年間
- 小学校 — 1～5 年 (6 歳～10 歳)
- 中学校 — 6～8 年 (11 歳～13 歳)
- 高校 — 9～10 年 (14 歳～15 歳)
- Senior secondary — 11～12 年 (16 歳～17 歳)
- 大学 商業系 — 3 年間
- 専門系¹ — 4 年間
- 医学系 — 5 年間

インドの高校は苦手な科目も上達させようとしていることと希望の専門が選べるようにす

¹ 専門系とは Chartered Accountant(公認会計士)、Architecture(アーキテクチャー)等

るために専門学校研修を行っていることが特徴だ。また、インドの高校は以下の制度で行政の管理によりサポートしている。

1. National Council of Educational Research and Training (NCERT)²
2. Central Board of Secondary Education (CBSE)
3. National Institute of Open Schooling (NIOS)

1929年にラージャスターン州アジュメール県の政府がCBSEを決議したのは教育水準を上げるためだ。NCERT (National Council of Educational Research and Training) はボランティア的な団体で、人材と開発省に積み立てられている。NCERTは1961年に結成され、学校教育と教師教育のための資料館として作られた。学校の教科書と教師が使うマニュアルの出版を主にやっている。

インドの教育システム全体の評価は世界で92位だが、インドの高校のシステムは中国と米国に続き、3位と評価されている。また、インドのIIT(Indian Institute of Technology)の教育水準は世界中で賞賛されており、毎年8000人の学生が入学している。この高校には色々なコースがあり、どのコースも大学入学許可 (University Grants Permission) が得られる。また、大学に進学しなくても、人材として開発省に登録される。ほぼすべての大学が州に管理されているが、18の大学は中央政府に管理され、中央大学と言われている。

1.4 新しいスキーム

1.4.1 女性の教育

デリーの州政府はラヅリーというスキームを発足させた。このスキームでは州政府が女子ひとりひとり (規定の年収グループに属している限り) の口座に毎年10万ルピーを18歳まで振り込む。また、生まれた女子を勇気づけるために、1万5千ルピーを1、6、9、10、12級に進級する時に振り込む。

1.4.2 職業教育

職業教育は Industrial Training Institute(ITI) とポリテクニクから始まった。インドは最近、繊維工業と衣料産業が盛んだ。現在、インドのファッション産業はかなり水準が上がり、デザイン、デザイン制作管理、品質管理、プランニング、ファブリックデザイン、ファッションアクセサリデザイン、ファッションマーチャンダイジング、繊維サイエンス、染色、マーケティングの分野に広がっている。

National Institute of Fashion Technology は1986年に繊維製品省によって設立され、デザイン、経営、製造技術の学校とファッションビジネスをプロとして主導する人材を育成

² National Policy on Education(1986) は環境への配慮、理科、技術教育、伝統と文化も紹介している。

するのに役立つ。そこには物理学、化学、生物学、心理学、コンピュータを研究する施設だけでなく、数学を研究する施設もある。

部活としてはダンス、演劇、歌曲会、書き取り、朗読などがある。修学旅行も部活の一つと考えられている。

色々なクラブで学生達に社会奉仕、農作業、掃除、問題についての話し合いのような活動に参加させている。現在ではオンラインプロジェクトによって学生達で協力し合い、交流する能力もだんだん上がっている。

1.5 標準的な科目

幼稚園

- 英語 数学 徳育教育 芸術 音楽 スポーツ 保健体育

小学校と中学校

- 英語 数学 理科 算数（インド独特の数学システム） 公民 コンピュータ
教訓 地域言語（州によって違う） 芸術 音楽 スポーツ 保健体育

高校

- 英語 数学 理科と技術 公民 地域言語（州によって違う）

インドでは言語の勉強が中心になっている。だいたいみんな二つの言語が使えるのだが、その上に英語も勉強しなければならない。

2. 日本の教育システム

- 教育システムの歴史 -

日本で初めて教育制度が作られたのは、701年の大宝律令とされる。その後も貴族や武士を教育する場が存在し、江戸時代に入ると一般庶民(common people)の学ぶ寺子屋(temple school)が設けられるようになった。初等教育から高等教育までの近代的な学校制度が確立するのは明治時代である。第二次世界大戦後の教育は、日本国憲法(japan constitution)と教育基本法に基づいている。

第二次世界大戦後、日本では小学校と中学校の教育は義務になった。1980年まで小学校の入学者は減少してきたが、第二次世界大戦後、大学入学者は増加している。

2.1 年齢による分け方

- 小学校 — 1～6年（6歳～12歳）
- 中学校 — 7～10年（13歳～15歳）
- 高校 — 11～13年（16歳～18歳）

- 大学 — 4年間

インドと日本の教育システムの違い

	インド	日本
幼稚園	1年間	1年間
小学校	1～5年 (6歳～10歳)	1～6年 (6～12歳)
中学校	6～8年 (11歳～13歳)	7～10年 (13～15歳)
高校	9～10年 (14歳～15歳)	11～13年 (16～18歳)
Senior secondary	11～12年 (16歳～17歳)	——
大学 商業	3年間	4年間
専門系	4年間	
医学	5年間	

2.2 標準的な構成 (小学校の校時表)

朝の会	8:15～8:30(15)
1校時	8:30～9:15(45)
2校時	9:20～10:05(45)
中休み	10:05～10:20(15)
3校時	10:25～11:10(45)
4校時	11:15～12:00(45)
給食	12:00～12:45(45)
昼休み	12:45～13:00(15)
5校時	13:05～13:50(45)
帰りの会	13:50～14:00(10)
児童下校	14:05

授業時間は同じだが、インドには掃除の時間などはなく、朝会とか帰りの会もない。大学に入ってから、「勉強以外のことをする学生」が多いのはそのような高校までの学校生活のあり方と関係があるのだろう。

インドでは、エンジニアの場合は特別に120分だが、商業など文化系は45分になっている。日本は高校まで授業時間が45分だが、大学は90分が標準だ。大学になって授業時間が二倍になるのは学生にとっていいことなのだろうか。大学に入ってから、授業中居眠りをしたり、あまり勉強せず、クラブやアルバイトばかり一生懸命したりする学生が多いのはそれが原因かもしれない。

日本の学校 (4月～3月)

- 見学：5月 (春)
- 競技大会：9月 (秋)
- 夏休み：(7月下旬～8月下旬)
- 冬休み：(12月～1月上旬)
- 春休み：(2月下旬～4月上旬)

— 卒業式：3月

インドの学校は6月に始まり、だいたい4月15日に終わるが、長期の休みはない（4月～5月）。長期の休みがあるおかげでバイトやクラブをやりやすくなるが、あまり勉強に使われてはいないようだ。

2.3 教科

小学校の科目

- 国語 公民 数学 理科 音楽 芸術 家庭科 保健体育（小学校では一週間に一回徳育の授業がある。）

中学校の科目

- 国語 数学 公民 理科 英語 音楽 芸術 保健体育 家庭科 見学、クラブもある。

高校の科目

- 国語 地理歴史 公民 数学 理科 保健体育 芸術 外国語 家庭科 情報

授業の構成はだいたい同じだ。しかし、インドでは小学校から英語の授業があるが、家庭科の授業はない。インド人が「勉強」とは考えない生活スキルを日本の学校では教えているということだが、これは日本人の大学生の生活の仕方、生きる姿勢に関係しているのかもしれない。

3. 現在のインドと日本の基本データ

	インド	日本	参考
識字率	62.8%	99%	UNESO, CIA WORLD FACTBOOK
在籍	98.6%	100%	UNICEF, MEXT
中退率	4.3%	2.65%	INDIA TODAY IN EDUCATION, MEXT

4. 学生における問題と不安

教育に関わる社会問題は「児童虐待／友達との関係／不登校と学校嫌い／非行と少年犯罪／フリーターとニート／引きこもり／ハラスメントとイジメ」などがあるが、この研究では非行と少年犯罪、フリーターとニート、引きこもりのみ取り上げる。

1. 非行と少年事件

「非行のある少年」とは以下の3つの種類である。

- 犯罪少年 — 刑法上の犯罪に該当する行為をした少年。（14歳以上20歳未満）
- 触法少年 — 刑罰法則に触れる行為をした少年。（14歳未満）

- 虞犯少年 — 保護者の正当な監督に服しない等いくつか事由があって、その性格又は環境に照らして将来、罪を犯し、又は刑罰法令に触れる行為をする虞のある少年。

国内における厳罰化の方向は国際的動向とは合致しない。国内の論評では、本来ふまえるべき「子供の権利条約」に言及するものはまれである。「少年非行予防のための国連ガイドライン」がある。近年、わが子の非行に悩む親たちが中心になって結成した「非行と向き合う親たちの会」の活動と主張は注目すべきものである。

一人一人の子供を生きる主体としてとらえ、その人格を尊重し、その子が健全に成長するために必要な援助を組織していく教育実践が求められる。また、そのような実践を支える教育学が必要である。

2. フリーターとニート

「フリーター」は学生アルバイトではないフリーアルバイターの略語として 1980 年代後半から若者たちの間で使われ始めた。フリーターとは雇う側にしてみれば、健康保険や厚生年金などの会社負担が掛からない、景気が悪くなればすぐ採用を打ち切り、使い捨てできる便利な労働力のことだ。「ニート」はイギリスにおいて、失業手当支給年齢の引き上げにより 16～18 歳の失業統計が消えて以降、学校教育、職業訓練、雇用のいずれにも属さない、社会から排除されかかっている若者たちを全体的に把握するための概念として生まれた。時給にしても社員と違って昇給がなく、安上がりだ。フリーターは雇う側にとって都合のいい労働力と言える。深刻な社会問題になっているニートたちは実は、はじめからニートになった人というのは少なく、一度は学校を卒業後、就職して正規社員になったり、アルバイト・パートで仕事をしていた人たちが多い。人間関係でうまくいかなかったり、私的な原因で働くのが嫌になった人たちがニートになる場合と、家庭環境でニートになる場合がある。親が援助するため、生活には困らないからますますニートから抜け出せなくなる。フリーターは生きる道がどんどん狭くなっていく。フリーターは契約期間何日、時給いくらで採用されるので、単純作業の仕事になり、長期間やっても仕事のキャリアとは評価されない。フリーターの仕事は技能も資格も得る機会が少なく、年をとるほど採用されなくなることもある。採用する側も安くて若いフリーターを選ぶのは当然だ。

これには以下のように 2 種類ある。

1. 現在就職している者については勤め先における呼称が「アルバイト」又は「パート」である雇用者。
2. 現在無業者については家事も通学もしておらず「アルバイト、パート」の仕事を希望する者

現状では、フリーターが 179 万人、ニートが 60 万人いる。

3. 引きこもり

近年、わが国では自宅や自室に引きこもり、社会活動に参加できない若者の増加が指摘されている。本稿では、若者のひきこもりという問題について、そして、引きこもりケースにみられる家族状況、家族支援の考え方などについて述べてみたい。なお、ここでは「ひきこもり」、「社会的ひきこもり」という用語を、「対人関係を回避して孤立している状態、あるいは、社会生活の範囲が著しく限定されている状態」を指して用いることとする。引きこもる若者と家族との関係は、しばしば緊張に満ちたものである。親への暴力や粗暴行為がみられる事例も少なくない。そして同時に、今日的な引きこもり問題の多くは、家族との生活ないしは家族の支援なくしては成立し得ない問題でもある。引きこもる本人と家族との間にどのような事態が生じているのか、また、思春期・青年期に至った子どもを自立させるための家族機能とはどのようなものなのかを考えてみる必要がある。

5. 大学生へのアンケート

以上のような社会状況で日本人の大学生はどのような意識を持ち、どのような生活を送っているのか。その実体をリアルに知るため、広島大学の学生を対象にアンケート調査を行った。回答者は46人である。

このアンケートはアンケート用紙を配るのではなく、グーグルの新しいアプリを使った。「グーグルフォーム」というアプリで、これを使えば、全ての回答が自動的に集計され、グラフにまとめてくれる。質問と答えのオプションをブラウザ経由で書き込み、そのURLをプリントした紙を配ったり、メールで送ったりすれば、簡単にアンケート調査ができる。

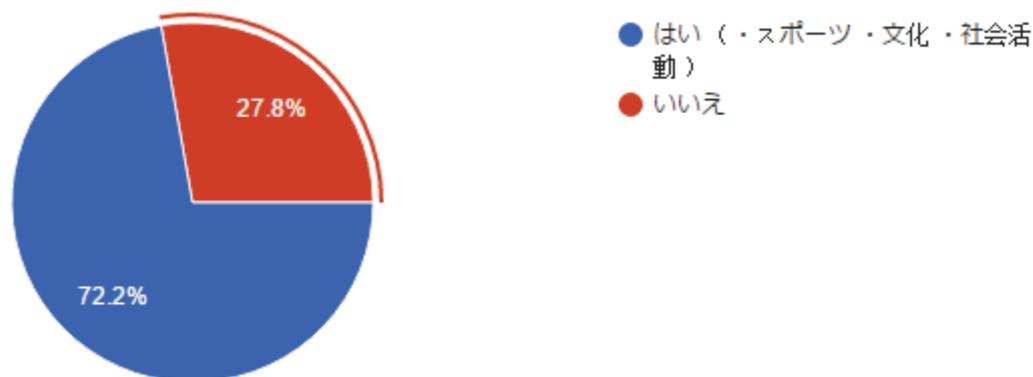


1. 専門は何ですか。

理系 — 63% (理学、機械工学システム、物理学、物理、物理科学)

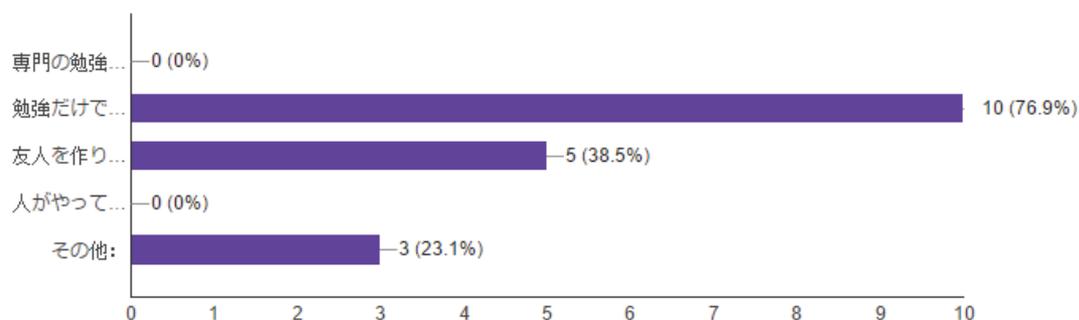
文系 — 39% (法律、通信、科学、化学、中国哲学、日本語学/社会語学、経済)

2. あなたは大学で部活をやっていますか？/やったことがありますか？



➤ インドにも部活はあるが、インドに比べるとやっている学生数がひじょうに多い。

3. どうして部活をやっているのですか？/やったのですか？



➤ インドでは部活をやる理由として趣味しかあがらないだろう。

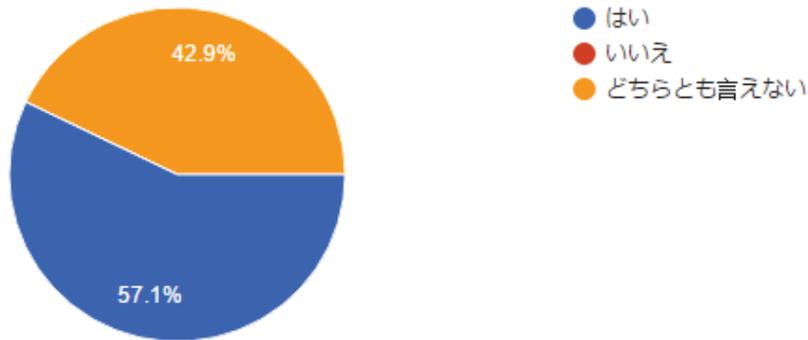
4. 「その他」を選ばれた場合はその理由を書いてください。

やりたいから

ゴルフが好きだから

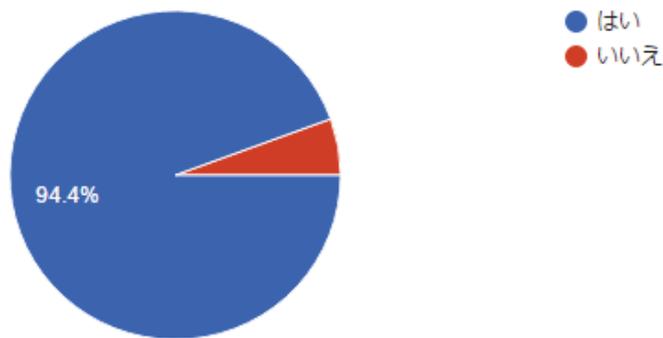
前から興味があるから

5. 部活には満足していますか？／していましたか？



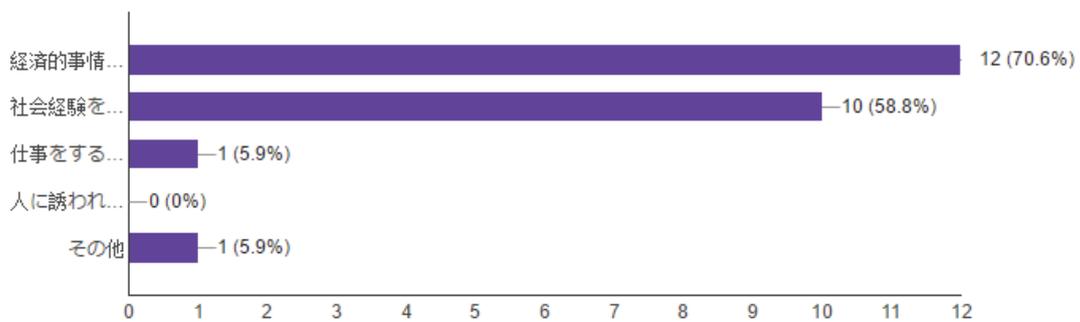
➤ インド人は部活で満足していなかったらすぐやめる。普通は、満足できないのなら、部活をする意味がないと考える。

6. アルバイトをやっていますか？／やったことがありますか？



➤ インドではバイトをする学生はほとんどいない。日本ではバイトをする学生がこんなに多いことに驚く。

7. どうしてやっているのですか？／やったのですか？



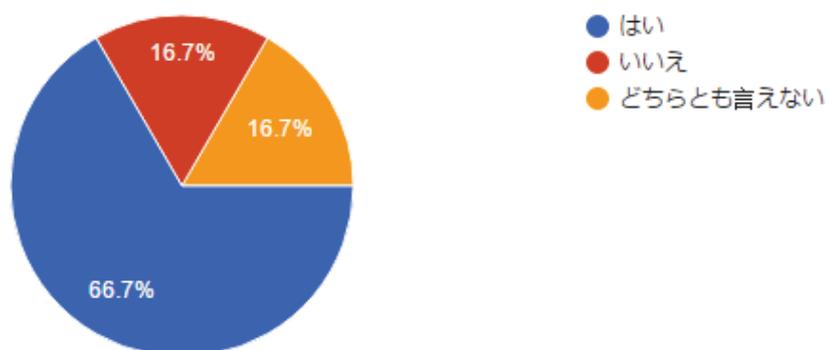
- 経済的な問題があったらインドでもバイトをする人はいるが、「社会経験を積むため」と考えるインド人はいないだろう。

8. 「その他」を選ばれた場合はその理由を書いてください。

趣味にお金を使うため

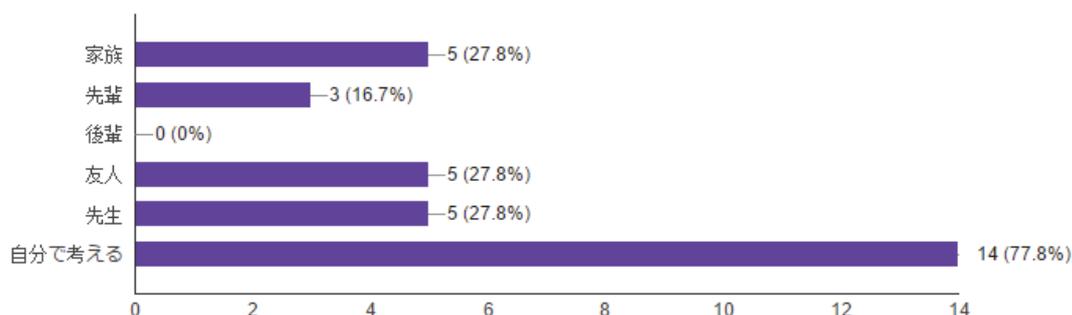
- バイトをすると、勉強する時間が少なくなるはずだが、趣味はそれほど大事なのだろうか。

9. 満足していますか？／しましたか？



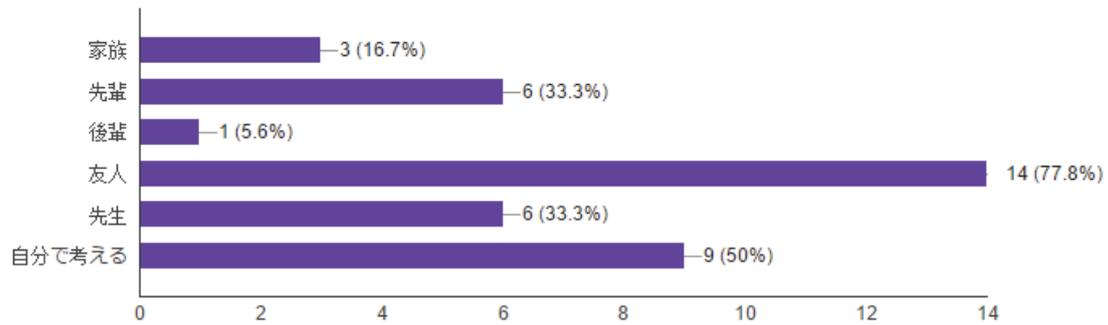
- 多くの日本人は満足しているようだが、インド人はしたくてしているわけではない場合、これほど満足はしないように思う。

10. 大学での専門、就職はだれに相談して決めますか？



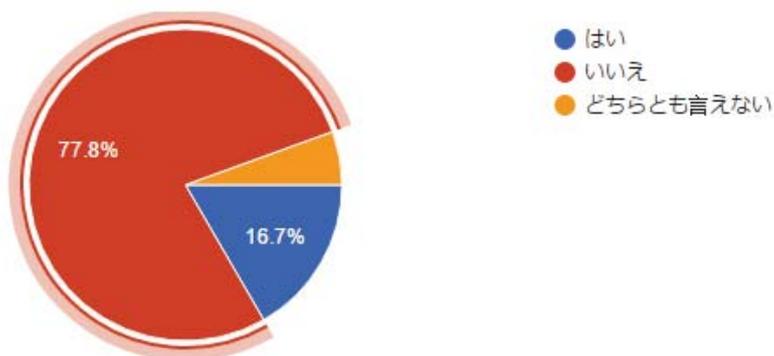
- インドでも自分で決める人が多い。しかし、家族には相談しても、先輩や友人に相談する人はあまりいないように思う。

11. 学生生活で問題があった場合、だれに相談したいですか？



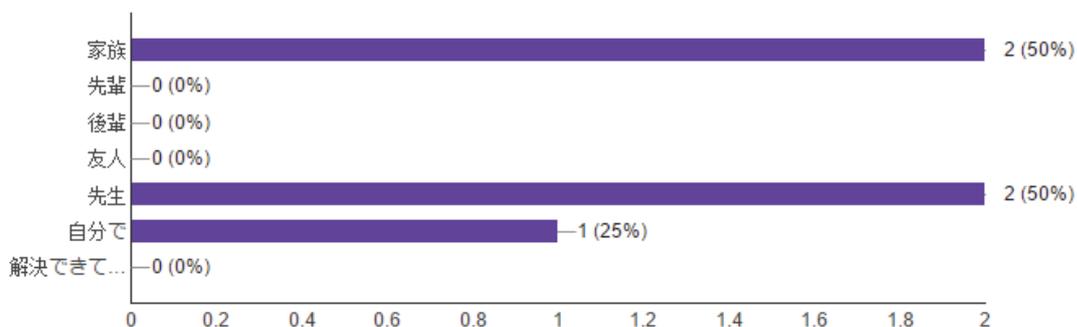
- インドでも友人に相談する人が多いが、後輩に相談する人はほとんどない。日本人は先輩・後輩の上下関係が厳しいというイメージがあるが、目下の者にも相談することがよくあるのだろうか。

12. ハラスメント、イジメのような問題を経験したことがありますか。



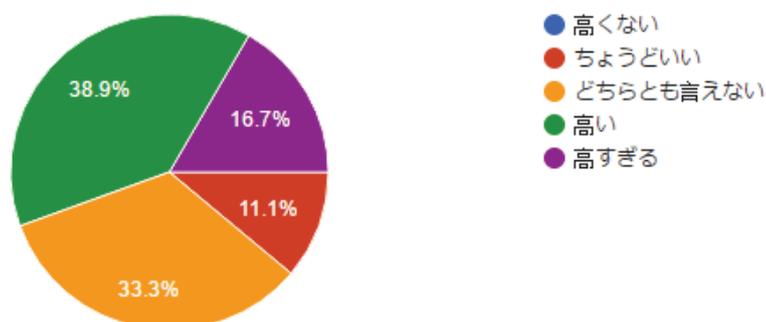
- 最近インドでも法律が厳しくなり、ハラスメントとかイジメのような問題は少なくなっている。このような問題を経験した人が16.7%いるが、これは少なくはない。

13. 「はい」と答えた人はだれに相談して解決したのですか。



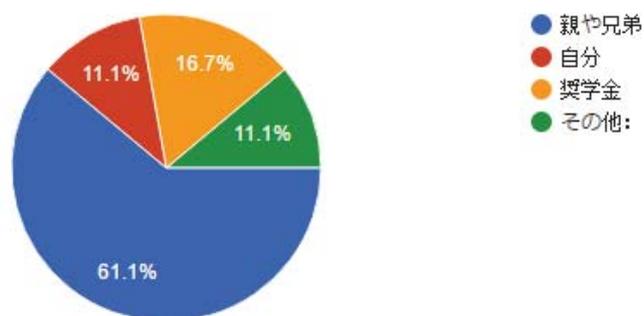
- インドではまず自分で解決しようと頑張った後、先生とか友人に相談する人が多いが、日本人は友達に相談しないようだ。友人にも隠そうとするのだろうか。

14. 大学の学費についてどう思いますか。



- インドでも医学、エンジニアなら、学費が高い。しかし、普通の専門であればそんなに高くない。一ヶ月分の生活費ぐらいだ。日本は一般的に高いようだ。

15. 大学の学費を出しているのはだれですか？



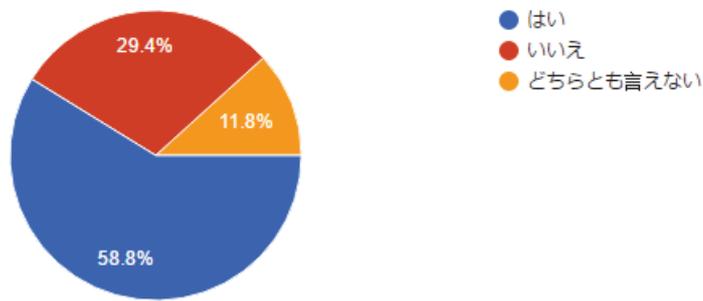
- インドでもだいたい親が学費を出している。

16. 「その他」を選ばれた場合はその理由を書いてください。

国費

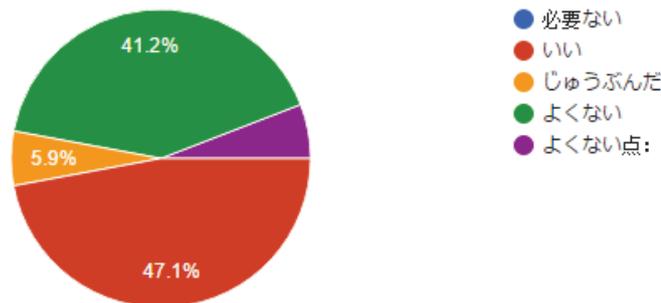
授業料免除

17. 大学で奨学金をもらいたいと思いましたか。



- 年収がある水準に達していなければもらえる奨学金がある。女性のためにも色々な奨学金がある。日本人がもらっている奨学金は全額返済しなければならないものばかりだと聞く。だとすれば、それは「奨学金」ではなく「学生ローン」ということだ。

18. 大学の奨学金の制度についてどう思いますか。



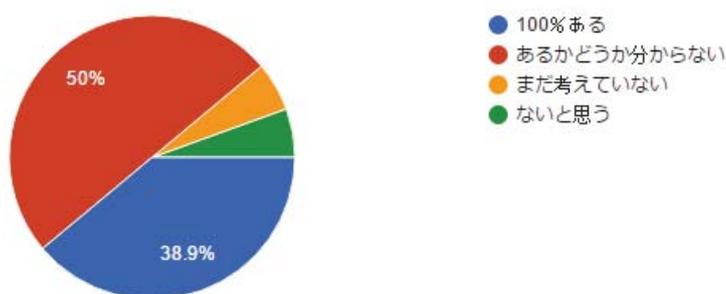
- インドの奨学金の制度はみんないいと考えている。日本人の満足度がそれほど低くないのは、大学を卒業した後、返済することがどれほど大変か、リアルにイメージできていないだけかもしれない。

19. どんなことが「勉強になる」と思いますか。いくつでも選んでください。



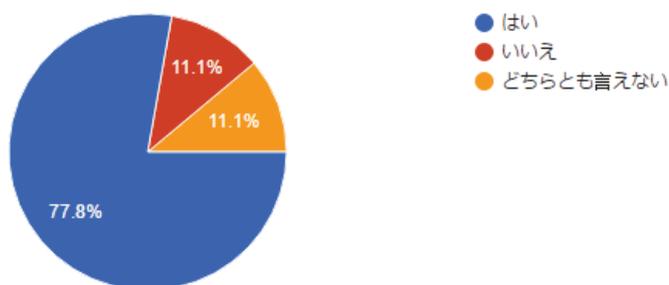
- インドではほとんどの学生が授業、いろんな人達との交流は勉強になると考えるが、それ以外は勉強ではないと考える。日本人にとって「勉強」はひじょうにレンジが広いようだ。

20. 大学の専門の勉強を仕事に生かせると思いますか。



- インドでは専門の勉強は80%仕事に生かせる。それを考えずに専門選ぶ人はほとんどいない。大学の専門と将来の仕事が繋がらないことに日本人は不安を感じないのだろうか。

21. 大学の専門の勉強を生かした仕事をしたいですか。



- インドでも専門として勉強したことを仕事にしたい人は90%ぐらいいるだろう。しかし、仕事にしたくないことをどうして大学で勉強しているのだろうか。

インタビューの結果

一人のアメリカ人、一人の日本人、一人のインド人にインタビューした。アンケートと同じ質問だが、少しくわしく話してもらった。その結果は以下の通りである。

	日本人	インド人	アメリカ人
専門は？	経済	日本語	文学

部活をやっている？	はい（スポーツ）	はい（ダンス）	はい（スポーツ）
どうしてやっている？	趣味だから	趣味だから	勉強だけではつまらないから
その他の理由	———	———	———
部活に満足	はい	はい	はい
アルバイトやっている？	はい	いいえ	はい
理由は？	経済的事情と経験	———	学費が高いから
その他の理由は？	———	———	———
満足している？	はい	———	はい
大学の専門とか就職はだれと相談する？	先生と自分で	家族、先生と自分で	先生と自分で
問題があった時、だれと相談する？	友人	友人と家族	自分と先生
ハラスメントとかイジメのような問題は？	いいえ	いいえ	はい
だれと相談する？	———	———	友人
大学の学費について	高すぎる	ちょうどいい	高すぎる
学費がだれが出す？	自分	親	自分
奨学金もらいたい？	いいえ	いいえ	はい
奨学金の制度について	よくない	いい	どちらとも言えない
どんな事が勉強になる	バイト、授業、本を読む	本を読む、交流、授業	部活と授業
その他の理由？	———	———	———
専門は仕事に生かせる？	100%	100%	80%
専門で仕事したい？	はい	はい。絶対	はい

インタビューのまとめ

日本人学生は現在の制度にそれほど満足していないようだ。部活でも満足していない場合も辞めずに続ける学生がいる。何か問題があった場合、家族に相談する人が少ない。インドでも趣味で部活をやる学生はいるが、バイトをする習慣はほとんどない。家族との関係が強く専門の分野で仕事したいと考える人が多い。アメリカではほとんどの学生は学費を自分で払っており、家族との関係はそんなに強くないようだ。

6. おわりに

どんな国の教育システムにも穴がある。しかし、問題は国によって違う、例えば、最近日本では「引きこもり」と言う問題が大きくなっている。テクノロジーの発達の副作用かもしれない。「アルバイト」の習慣がほとんどないインド人から見ると、アルバイトをする人が増えると、自立できる人が増え、自分の責任を理解できる若者が増えるように思う。

この研究ではインドと日本の学生達の問題点の比較はできなかった。現時点では、日本人学生の不安までは調べることができた。将来の課題としては発展途上国と先進国の学生の問題の違いについて研究したい。

参考文献

1. 教育科学研究会「現在教育のキーワード」、大月書店 2006年
2. 上田学「日本の近代教育とインド」、多賀出版 2001年

参照リンク

- <http://pt.slideshare.net/Tanmaydhama/indian-education-system-vs-japan-education-system>
- <http://education.stateuniversity.com/pages/738/Japan-EDUCATIONAL-SYSTEM-OVERVIEW.html>
- <http://pt.slideshare.net/shamsg2001/indian-education-system-15999629>
- <http://pt.slideshare.net/Darcidai/education-in-japan>
- <http://www.gemsoo-alquoz.com/contents.php?pageid=1126>

参照データ

- http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/__icsFiles/afieldfile/2016/01/18/1365622_1_1.pdf
- http://www.khj-h.com/tyousa/hikikomori_toukei.html
- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/028/siryo/06081106/002/001.pdf